

②

キロリは　イチョウの木の精です。
キロリは　自分の木が自慢です。
なぜって、この木は　どんな木よりも古くから
この地球にあったから。
ずーっとずーっと大昔、
まだ恐竜がすんでいたころから、
この木はありました。
葉っぱの二つに割れたような筋は
大昔の木にしかありません。

イチョウの木には、不思議な力があるようです。
その証拠に、キロリはオジイから、
イチョウの木の　ひみつのいのりを聞きました。

オジイは言いました。
「その祈りは一度しか使えない。
それを使う時は、たくさんの人がいっしょの時」
でもキロリは、ひみつの祈りのことなんか、
すぐ忘れてしまいました。
キロリには　困ったことがあったからです。

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

協力：東京家政大学人文学部教育福祉学科 宮地ゼミ
この紙芝居は、東京ガス環境おうえん基金の助成を受けて、作成しています。



③

それは、
カラスのカースケと、ヒヨドリのフースケが
自分の木の上で毎日、けんかをしていることです。

カースケ「カー、カー！
お前たちは、
頭をぼさぼさにしていてだらしない。
しかも食いしん坊と来た！
こんなヒヨドリに、
この立派な木は渡さないぞ。カー！！」

フースケ「ギー、ギー！
カースケ達はいつも、
大勢で、鳴きわめいてうるさいんだ！
そんな行儀の悪いカラスに、
この木をわたすもんか。ギイー！」

この2羽の終わらないけんかに、
同じ木に棲むツグミのグっちゃんと
ムクドリのマー坊も困り顔。
キロリも、この様子を
イチョウのうろの中から聞いていました。

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

協力：東京家政大学人文学部教育福祉学科 宮地ゼミ
この紙芝居は、東京ガス環境おうえん基金の助成を受けて、作成しています。



④

ある日のこと、向こうから、
小さな人間の男の子がやってきました。
「キロリ～、あそぼう。」と、男の子は言いました。

キロリ「モックンだ！」

モックンは、
キロリを見ることができる、ただ一人の人間です。
他の人間には、キロリは見えません。
キロリは急いで、木から下りて、
モックンの頭に飛び乗り、ブランコを始めました。

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

協力：東京家政大学人文学部教育福祉学科 宮地ゼミ
この紙芝居は、東京ガス環境おうえん基金の助成を受けて、作成しています。



⑤

そのとき、
目の前のイチョウの木から何かが落ちてきました。
落ちてきたのは、
ヒヨドリのフースケではありません。
フースケは痛くて動けません。
モックンとキロリは、
驚いてフースケにかけよりました。
フースケはカースケに向かって怒鳴りました。

フースケ

「いたい、いたい、カースケが悪いんだ。
らんぼうものは　どこかへ行け！」

カースケ

勝ち誇ったカースケが　上から
「ボサボサフースケ。お前の負けだ。
お前のように　なんの木の実でも
食べてしまう食いしん坊なやつは、
とおい国へとんで行け。
ここはわしらの木にするぞ！」
それを聞いたキロリとモックンは、
困ってしまいました。

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

協力：東京家政大学人文学部教育福祉学科 宮地ゼミ
この紙芝居は、東京ガス環境おうえん基金の助成を受けて、作成しています。



⑥

やがて、秋になりました。
イチョウの木は　何百何千という黄色い実を付け、
黄色い実をつついて、　おいしい実を食べました。
地面におとしました。
そこへフースケたちがやってきて、
フースケの仲間には、
種を口にくわえて運んでいき、
あわてて空から落としているものもいます。
イチョウの実は　見る見るうちに
辺りの土の中に散っていきます。
春になると、イチョウの赤ちゃんがでてきそうです。
モックンも　イチョウの実を拾いにやってきました。
中の実がおいしいことを　知っているからです。
カースケたちも、　負けずに食べようとしました。



「なんだ、なんだ、このにおい。
こんなくさいもの、たべられるか。」
そう言って、カースケたちは、
まちの方へとんでいってしまいました。
黄色い実のおかげで、イチョウの木は
ヒヨドリのフースケたちの家になりました。
キロリは、これで少し静かになったかなと
ホッとしていました。

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア
協力：東京家政大学人文学部教育福祉学科 宮地ゼミ
この紙芝居は、東京ガス環境おうえん基金の助成を受けて、作成しています。



⑦

秋も深まったころ、毎日雨が降り続きました。
キロリは　イチョウの木がどんどん年をとって
弱っていくのが心配でした。
うろの中に座って、雨の強い音を聞いていると、
だれかがよんでいる声がします。

モックン「キロリー、元気ー？
　雨で遊べなくてつまらないねー。」

モックンでした。

キロリ「元気だよ。
　でも、イチョウの木が　元気がないんだ。」

モックン「そうなの？　どうしたら、元気になるのかなあ。」

キロリ「昔、オジイが言っていたんだけど、
落ちたイチョウの葉を　たくさん集めて、
生きものの形にすると、
地面から、命の力がわいてくるんだって。
その力で、
イチョウを元気にできるかもしれない！」

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

協力：東京家政大学人文学部教育福祉学科 宮地ゼミ
この紙芝居は、東京ガス環境おうえん基金の助成を受けて、作成しています。



⑧

次の日、雨が上がると、
モックンは友達を連れて、
イチョウの木の下にやってきました。

モックン「みんなでイチョウの葉で、
生きものを作ろう！」

みんなでせっせと
黄色いイチョウの葉をひろっていると、
ガヤガヤ空から降りてきたものがいます。

物まねが大好きなカースケたちでした。
口にイチョウの葉をくわえては、
子ども達のところへ葉を運んできます。
すると、ヒヨドリのフースケたちも真似をして、
葉を運んでいきます。

【作業の指導へ】※下記参照

【指導者用の言葉の例】
イチョウの木を元気にするために、みなさんもイチョウの葉で、いろいろないきものを作ってみませんか。
（子ども：はーい）
では、イチョウの葉で画用紙に好きな生き物を考えて貼ってみましょう。

【創作活動（20分程）】
では、みなさんのつくった生き物をイチョウの木に向かってみせてください。
そして何の生き物か教えてあげてください。

【発表】
あっという間に、たくさんのイチョウの葉が集まり、次々に地面に生き物たちが出来上がっていきます。

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア
協力：東京家政大学人文学部教育福祉学科 宮地ゼミ
この紙芝居は、東京ガス環境おうえん基金の助成を受けて、作成しています。



⑨

キロリ「チョウ・花・トンボ・クワガタ・おどり子・ライオン・ネコ・イヌ・ラッパ・・・〔実際に作ったものにあわせて〕すごいな、こんなにたくさん。」

キロリは喜びました。

みんなのおかげで

なんだかイチョウの木が　元気になっていきます。

その様子を見て、キロリがさけびました。

キロリ「木のいのち、木のいのち、大きくなあれ!!　ドドンガードーン。」

キロリは、オジイから聞いていた

大勢がいるときに　一度しか使えない、

ひみつのいのりを使いました。

みんなも真似をしていいました。〔参加者にも呼びかける〕

「木のいのち、木のいのち、大きくなあれ!!　ドドンガードーン。」

すると、年をとったイチョウの木が

「ブルルーン、ブルルーン、ブルルルーン。」

と体中をふるわせて、　せのびをしたかと思うと、

全身で、体を広げて、

みるみる立派なイチョウの木になりました。

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

協力：東京家政大学人文学部教育福祉学科 宮地ゼミ

この紙芝居は、東京ガス環境おうえん基金の助成を受けて、作成しています。



「ワアー、世界一立派なイチョウの木だー。」
みんな大よろこびです。
カースケも、フースケもグっちゃんもマー坊も、
モックンや子どもたち、キロリも、
みんな大喜びです。

世界一大きなイチョウの木は、
だれのすみかになったのでしょう。
とても大きな木なので、
カースケもフースケもグっちゃんもマー坊も
みんなですんでもまだ大丈夫！
キロリは仲良くなった鳥たちを見て、
モックンと微笑みました。
イチョウの木は、みんなが作った生きものと、
ひみつの祈りのおかげで、
今まで長く生きてきたのかもしれませんね。

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

協力：東京家政大学人文学部教育福祉学科 宮地ゼミ
この紙芝居は、東京ガス環境おうえん基金の助成を受けて、作成しています。



①

創作童話　『木の精キロリのひみつのいのり』

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア
address：〒174-0063　東京都板橋区前野町４－８－６
tel & fax：03-3960-6052　　e-mail：info@npo-soe.jp

協力：東京家政大学人文学部教育福祉学科 宮地ゼミ
この紙芝居は、東京ガス環境おうえん基金の助成を受けて、作成しています。